常磐文藝

△賣笑婦が通つて行く

宵の夢生

賣笑婦が通つて行く、
曇つた朝の靜かな街路を
白いすねをちら〳〵と通つて行く
きらびらかな衣服の裡から
漫熱しきつた肉の香りを漂せつゝ
野邊に飛び舞ふ毒蝶の樣だ
白粉のまばらになつた顏を
青春の薄紅い艶にして
亂れた髮をかき上げ樣ともしないで
白いすねをちら〳〵と通つて行く

移轉廣告
內外科
皮華科
入院應需
白銀町（北鄕醫院跡）
新妻醫院
電話五六九番

美味で評判の
遠藤パン
（平驛前）

營業種目
味付落花
金磯寶
米糖花
ドロップス
有尼平五都全
子平荷各種豆豆豆豆豆
稻糖
來の
ブ
斤賣糖各種
世界
色

東京海上火災保險株式會社平代理店
富國徵兵保險相互會社平事務取扱所
店主　久野柳助
久野製果販賣部
福島縣平町一丁目
電話一五〇番
工場　平町長橋町六十一番地

漆器指物
和
平町一丁目
電話四〇五番

貸家
櫻町住宅向　拾圓
白銀町商店向　二十五圓
住宅向　拾二圓
仲間町商店向　拾二圓
柳町住宅向　八圓
平町白銀町
加藤營業所
電話三二番

賣地
五丁目　地所付賣家
舊城跡、本丸、二ノ九

入院隨意
內科
小兒科
皮膚科
花柳病科
平町城山（舊城跡）三の丸
青沼醫院
醫學士青沼淡夫
電話四〇三番

御案內
一、冬衣各種特價提供と毛糸製品各種取揃へました
二、實用的な編物の季節で御座います毛糸各種各色が取そろへました
三、編物界の王干葉富美先生著
毛糸編物研究　60錢
弊店毛糸部にて販賣致します
海岸線平町
三井吳服店

電氣部施設
モートル　變壓器修理
平町月見町
佐藤鐵工所電氣部
電話三六二番

見よ帝キネ黃金時代劇出現
天保六歌仙。血湧き肉躍る
金子市之亟　後篇全卷
目下大好評の帝キネ漫畫
『切雀』全卷
昔々その昔又その昔の大昔ある處に
お爺さんとおばさんがあつたとさ……
叙事詩映畫
戀のローマンス　高原の處女　全卷
實川延松主演
舊劇　霧隱才藏　全卷
帝キネ
直營
有聲座
電話四六番

株式賣買中値
電話に金融致します

銘格	拂込	時價
磐城銀行	四〇、〇	四五三、五
平銀行	五〇、〇	六八、〇
磐越銀行	一二、五	一〇、五
磐城實舊	五〇、〇	四二、〇
磐城實新	三〇、〇	二八、〇
田村實銀	一二、五	一二、五
四倉銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇、〇	二五、〇
同　新	一五、〇	一九、〇
百七銀行	五〇、〇	五五、〇
同　新	一二、五	一六、〇
七七銀行	一二、五	九、八
郡山電氣	五〇、〇	四二、〇
同　新	二五、〇	一九、五
貝見川電	一二、五	七、五
植田水電	一二、五	一五、五
好間水電	一二、五	一三、〇
磐城建物	二〇、〇	五、〇
磐城製菓	一二、五	二、五
平信託	五〇、〇	二五、〇
磐城勸業	一二、五	一三、五
植田物產	三〇、〇	二六、〇
平製水	二五、〇	一八、〇
好間軌道	五〇、〇	三〇、〇
入山新	三二、五	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	九、〇
磐城炭礦	五〇、〇	四一、〇
同　新	二二、五	一八、〇
磐城セメン	五〇、〇	六二、五
同　新	三五、〇	四二、〇
平運送	一二、五	八、〇

賣買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願上候
平町田町　電話三二二番
丸登株式店
川添房二郎

大正十二年十一月八日　第三種郵便物認可　常磐毎日新聞　(第二百九十二號)　(一)

常磐毎日新聞

定價　一部金貳錢　一ケ月壹圓
郵税五厘　廣告料　五號十二字詰一行一日　五十錢
休刊日　日曜大祭祝日ノ翌日
發行兼編輯人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町卅五番地
發行所　常磐毎日新聞社
印刷人
印刷所　本社專屬　磐陽社
福島縣石城郡平町鍛冶町十一
十一月十三日夕刊

寄書

邪推と誤解（一）

中山雅司

人に對する警戒をし過ぎる者は萬事に疑ひの眼が離れないから、胸中暗鬼を生じて兎角邪推深く猜欵深くなるさうすると相手も亦、變に邪推されるが嫌さに自然其人にに好意を持たなくなるそうして互に心が段々に乖離して行く、今度は反對に色々な想像が相手の腦裡に湧いて來る、斯うして疑ひ深い心を益々刺戟して强度の邪推家とならしめるかく相互疑惑に落ちた果は互の心に葛藤を呼び反目を生み確執を生じ爭鬪となる楚王に一人の寵姬があつた夫人の鄙袖と言ふのが之れを妬んで、退けやうと肝膽を碎いた末一策を案出した夫人は寵姬に向つて『お前は實に美人であるが難を言へば鼻の形が少し惡い、だから王樣に逢ふ時袖で鼻を匿しなさい、そうしたら尙一層の御寵愛に預る事でしやう』親切ごがしに說き勸めたまた一方王に對つて『貴郎貴郎のお口は非常に臭い妾はかまいませんが、あの方にお逢いの時はよく含嗽を遊ばしませ』鼻の下の長い王は盛んに口を嗽ぎ齒を磨いて愛姬に會つた、處が不思議、姬は鼻を塞いだ儘での挨拶袖屏風を取らない、是れには流石の王樣惰けないのが通り越して、聊か小癪に觸つて來た

不機嫌な後姿を見送つた姬は獨り言「あれ程隱して居たのだけれど、あの御樣子では、きつと見えたに違ひない、今度はぬからずによう氣を付けて」

王は王で「まだ余程臭いと見えるわい」

典醫に命じ齒磨を造らせ含嗽藥を調製させ、大騷ぎを遣つた末に再度愛姬の許へ足を運んだ

（續く）

古河廢坑の爲め 五百人の學童が激減

本日郡視學の調査

教員は他校へ轉任と決定

石城郡好間村古河炭礦の廢坑と共に總べての勞働者は他の炭礦に轉住せる結果同村の尋常高等小學校の生徒數激減し從つて學級數が少なくなる爲め教員中に馘首さるゝ者多數あるべしと傳へられて居るが本日大越郡視學が同校に出張して調査した結果に依ると先月末の在籍兒童數は二千八十四人で有た處昨日迄に五百十一人の兒童退學し現在千五百七十三人にて今後五十名内外の退學者ある見込であるから卅六學級を有して居た同校は　廿四五學級にて充分兒童を收容し得る事となると右に關し大越郡視學は語る「學級が減少する爲め從つて教員數も少くなくなる譯ですが現在の學級卅六に對して割當て教員は男十六名、女十六名、合計卅二名で不足を告て居た次第であるから此際多數の教員を　減少するの要なく先づ六七名位を他校に轉じて馘首は致さぬ考へです」

郡青年團 幹部會を開く

講師を招く

石城郡聯合青年團にては來る二十三午前九時半から郡議事堂にて評議員會を開き團長選擧の件、縣聯合青年團代表員及び豫備員選定の件を附議し終つて同十時から幹部會を開き午後からは名士の講演ある筈にて目下講師として法學博士小林義三郎氏に交渉中であると

東京から 教諭を招ぐ

平陽實科にて

平陽實科女學校にては下田歌子女史の經營せる實踐女學校教諭御子柴操女史を文學や家事の教諭として招聘する事となつたが同女史は來る十六日赴任すると

琴古流尺八

温習會開催

平町鹿風會主催琴古流尺八温習會は十六日正午から平陽實科女學校にて開し尺八には古關玄童、谷口鹿童、飯高曙童、小野靜童、鈴木武雄の諸氏吹奏し彈琴者としては上原淳子、城野久和若松佐登故、鈴木佐喜男、黑田眞佐代、新妻睦子の各上原社中出演する由

ハシギレ投賣

日本一の安賣王と稱する東京髙橋商會は平町三丁目山本旅館にて十一日から最新流行の友禪メリンス端しギレ物を破格の安價にて投げ賣りして居るが期間は十八日迄であるから賣り切れぬ内に買へ込まねばならぬと毎日非常な賑ひである

高久助役當選

石城郡高久村助役平間武氏助役に當選し認可申請中

入營兵送別を機とし 精神作興の遵奉宣言

縣社子鍬倉社頭にて

平町にては本年度入營兵送別會を來る廿一日午前十一時から縣社子鍬倉神社々頭に於て開催する筈であるが當日は先づ山部神官の神詞奏上あつて伊坂町長送辭を述べ續いて來賓の祝辭あり清楚なる酒宴を張る由尚ほ此催しを機とし開會一時間前から町民一同の精神作興御詔書遵奉宣誓祭を執行し詔書の御趣旨を奉体すると因に入營兵は左の如である

田町鈴木繁雄、長橋町佐藤桑吉、古鍛冶町眞田友春、同藤澤正夫、南町川上金六、大舘林一、紺屋町青天目源一郎、久保町田卷悅次、新川町和賀幸三郎、紹屋町作山亥之介堤の内山本勝次郎、立町松本春次、堂の前畑中繁太郎、三丁目山澤健三、鎌田町酒井榮太郎、同鈴木傳吾、北目町渡邊孝一新川町柏原光太郎、搔槌小路丹吳忠雄、同吉田忠

卷狩りに 賞與を寄贈

平銃砲店から

平署にては來る十六日午前九時管内の狩獵者を招集し伊藤署長から狩獵上の注意に關して訓示あり終つて有志者會合し好間村方面に卷狩を試みる等であるが平銃砲火藥店にては雉子三羽を一等として五圓、同二羽は二等と定め、同一羽を三等とし夫々賞品を贈與し山鳥兎、鴨等も是れに準じて賞與する由

平陽庭球開き

平町搔槌小路平陽實科女學校にては來る廿三日午前九時から校庭に造つた庭球コート開きを催す由にて郡内の選手多數參集すると

不平受付

投書歡迎

店員の横着　私は先日○丁目○○○○に買物に行きました處が其店の店員は極めて横着で品物を種々見せて貰はうとすると一々舌皷を打つてサモ面倒臭いと云ふ風を示します、店主のシツケも惡いでせうが斯う云ふ店員の居る店は旅行者等に非常に不快な感を與へやしないかと思はれます

（買物者）

▽社長川崎の答……貴方の不平は尤もであるかも知れませんが商店名を露骨に紙上に掲げる事は其店の信用にもかゝはる事ですから責任者の答は徵しませんでした、若し店主や店員で思ひ當る節があつたら是非反省を望みます

募集

文藝其他投稿を募集します

家庭欄

ゆず大根

大根の皮をむき、五厘位の輪切りにし、鹽をふつてそのまゝ、二三十分おき、柔らかくなつた時、よく鹽を洗ひ水氣をしぼり、次にゆずを一分位の輪切りにし種を去り、前の大根とまぜ合せ井に入れて、酢と醬油と砂糖少々とを併せたものを上から注ぎかけ、其のまゝ一時間漬けこみ、小皿に盛つて出します、これは溫い料理ではありませんが、お香の物にもなり、お酒の肴にも大層氣か利いてゐます

黃菊の花つけ

菊の節が參りました、之を貯へるには、水一升に鹽五合程入れ、一旦煑立てゝ冷したものに黃菊の花ばかりを摘みとつて漬けます瓶等に入れ固く目張りをして貯へ、入用時鹽出しして用ゆ

常磐片々

○

貧乏人の生活は節約の好模範、是れ以上節約すれば命がアブナイ

○

マサカ三杯の麥飯を二杯に減らし此寒さに襦袢一枚でも過されまい

○

節約宣傳は金持階級にこそ必要なれ貧乏人には釋迦に說法

商生徒安着

關西地方修學旅行中であつた平商業學校三年生は昨夜六時五十五分平驛着下り例車にて一同安着した

上ツ張の値段調べ

寒さに向つて誰も外套の用意をしなければならぬが、今年は羅紗地や工賃の關係で昨年より約一割五分方高價い從つて男物の外套は九割は既製服で餘程せつぱつまらぬと注文服をやる者は尠い、それに引きかへ婦人の東コートは既製半ば注文半ばと云ふ調子だ

△婦人の東コート　婦人の東コートではシールのやうな派手なものは全く廢たつて防寒用ラクダ地が一番多い裏は錦紗に似たバーレスで甲斐絹より高く繻子より廉いものが最も使はれる使ひ場所は袖裏半裏（肩すべり）までゝ形は折襟（へちま襟）角袖で裾は長目だ註文だと最低四十圓普通八十圓最高百二十圓既製だと最低二十九圓普通四十五圓最高八十圓である

△男子オーバコート　男子のオーバコートにはいろ〳〵な生地が用ひられる厚地のラクダメラトン、玉羅紗、霜降メルトン厚地裏縞ラクダ、スコシチ等で既製品には厚地裏縞ラクダ、スコッチが用ひられる色は主として茶系統で黑紺鼠は相變らず多い此方は裏地によつて値段が變つて來るアルパカ裏地は既に使はず絹縮子全益である註文品だと最低八十圓普通百二十圓最高百五十圓である既製品は最低三十圓より普通五六十圓最高百圓内外である

△二重廻はし　これはだん〳〵減りつゝある布地はメルトンで黑の霜降鼠茶系統が一番多い裏地は甲斐絹より羽二重に羽二重より繻子に變つて來た、この裏地だと一着分で十圓宛巽ふ一番高い繻子裏で註文は最低八十圓普通百十圓最高百五十圓既製品は最低綾甲斐絹の裏で五十圓シスだと六十二圓中間八十圓最高百十圓である

平町人事

▲出生

△蔡城跡　猪狩忠三郎氏長女一子
△北目町　鈴木喜一郎氏四男建助氏
四丁目　當時田村郡三春町熊田床三郎氏二男庄二
△白銀町　鈴木甚五郎氏長女敏子
△鍛匠町　小山○一氏長男秀夫
△一丁目　三井三郎氏長女敬子

▲婚姻

△長橋町　渡邊ハル（二一）北海道旭川市江木定雄氏（二四）
▲相馬郡　南折田村阿部喜一氏（二三）三丁目清水ヨシ（二一）
▲茨城縣潮來町　塚本堯之助氏（二三）田町高萩キヌエ（二三）

▲死亡

▲南町　田中ミノ（五九）